

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成21年6月4日(2009.6.4)

【公開番号】特開2009-86414(P2009-86414A)

【公開日】平成21年4月23日(2009.4.23)

【年通号数】公開・登録公報2009-016

【出願番号】特願2007-257359(P2007-257359)

【国際特許分類】

G 03 F 7/031 (2006.01)

G 03 F 7/004 (2006.01)

G 03 F 7/027 (2006.01)

H 05 K 3/00 (2006.01)

C 08 F 290/14 (2006.01)

C 08 F 2/50 (2006.01)

C 08 G 59/42 (2006.01)

【F I】

G 03 F 7/031

G 03 F 7/004 5 1 2

G 03 F 7/004 5 0 1

G 03 F 7/027 5 1 5

G 03 F 7/027 5 1 3

H 05 K 3/00 F

C 08 F 290/14

C 08 F 2/50

C 08 G 59/42

【手続補正書】

【提出日】平成21年3月11日(2009.3.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0069

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0069】

合成例3

(A-3) 前述したカルボキシル基含有樹脂(4)に該当し、脂環式ジイソシアネートを使用した感光性カルボキシル基含有ウレタン樹脂の合成:

攪拌装置、温度計、コンデンサーを備えた反応容器に、1,5-ペンタンジオールと1,6-ヘキサンジオールから誘導されるポリカーボネートジオール(数平均分子量800)2400g(3mol)、ジメチロールプロピオン酸603g(4.5mol)、及びモノヒドロキシル化合物として2-ヒドロキシエチルアクリレート238g(2.6mol)を投入した。次いで、ポリイソシアネートとしてイソホロンジイソシアネート1887(8.5mol)投入し、攪拌しながら60まで加熱して停止し、反応容器内の温度が低下し始めた時点で再度加熱して80で攪拌を続け、赤外線吸収スペクトルでイソシアネート基の吸収スペクトル(2280cm<sup>-1</sup>)が消失したことを確認して反応を終了した。固形分が50質量%となるようにカルビトールアセテートを添加した。得られた感光性カルボキシル基含有ウレタン樹脂の固形分の酸価は50mgKOH/gであった。以下、この反応生成物を樹脂溶液(A-3)とする。